



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

2023年の幕開けからひと月が経ち皆様どのようにお過ごしでしょうか？コロナ禍はいまだに収まりそうもなく、ウクライナにおける悲惨な戦争状態も終わりそうもなく、ウクライナ以外でも北朝鮮、イラン、ミャンマー、アフガニスタン等々社会体制の問題が無くなることは無いのでしょうか。

2月は平和構築と紛争予防の月間ですがロータリーの組織を持ってしても、紛争を無くすることは難しいことが痛感されますね。世界に7つある平和センターですが、そのひとつが国際基督教大に設置されたのは1999年です。2002年以降、この大学から毎年約10名のロータリー平和フェローを輩出していますが、世界の紛争に対してはあまりにも少ないような気がします。

ダボス会議では、ロシアを「ならずもの国家」と呼んでいましたが、戦争から生まれるプラスのものは何もないという、第2次大戦で学んだことは忘れ去られたのでしょうか。何も学んでいないというべきでしょうか。

ロータリーでは政治の話は禁句ではありますが、平和構築において政治を抜きには何の進展もありません。ロータリーでの体験を経た方が多く政治に関わってもらえることを願うのは私一人だけでしょうか。国と言う単位が何時まで存在するのか判りませんが、世界を見渡すと欧州においてEUという壮大な国家を超えた組織の試行が続いています。あの粘り強さはどこから来るのでしょうか。

第2次世界大戦からわずか6年後に発足した欧州石炭鉄鋼共同体が基礎となりその6年後には欧州経済共同体が設立されています。これらは2007年のリスボン条約ですべて解体されEUに移行するのですが、13年後に英国が離脱しました。しかし残った国々はいまだに加盟国間の調整に途方もない時間と労力が割かれているのを見ると、国家と言うものが無くなる日は来るのかしらとも思えてしまいます。

この記事を書いている間にもウクライナのガバナーから緊急に必要な発電機を取得するための資金提供のお願いのメールが届きました。真冬日の寒さを知る当地区の皆様においては、厳寒のなかで電気の無い生活が如何なものか想像は容易いと思います。

閑話休題 今年はやかな元旦でしたが、2日から気温が下がり流石に北海道の正月は寒いものだと感じた出来事がありました。我が家の1階は温水で床暖とパネルヒーターで暖房を採っているのですが何とその床暖用ボイラーが故障してしまい、正月休暇に入っているにも拘らず、建物のメンテナンスを頼んでいる方に連絡をすると5日まで業者さんも稼働しないとの事。冷たい床を耐え忍ぶこと4日間、6日に部品交換をして頂きボイラーが動き始めたときは、感激でした。

幸い給湯ボイラーは動いていましたので、風呂や台所は何とかなだったので、要は普段より多くの時間を布団の中で過ごした正月だったということでした。ウクライナで悲惨な生活を送られている人達が居ることを思えば、大したことは無いのですが年寄りには試練の時間でした。

この間、家での食事は温かな物ばかりで、付き合いで購入したおせちの重箱を空にした後は、食材は何でも鍋物と化し寒い部屋の中で湯気上げる鍋がとても嬉しく卓上カセットコンロは大活躍でした。我が家の鍋物の多くはさっぱり系で、ポン酢で頂くものが多いのですが、お鍋を美味しくするコツは茹で汁にあります。すなわち昆布の出汁と日本酒を惜しみなく使うことでお肉も魚も野菜まですべて美味しく火が通り、一味でちょっと辛味を付けたポン酢で頂くと至高の喜びとなります。

話を地区活動に戻しますと、1月21日に現年度のガバナー補佐会議がありました。下の写真がその時のものです。



会議では、松浦ガバナーエレクトがオランダでの国際協議会からお帰りで、お疲れの中出席して頂き、お土産話も聞かせて頂きました。また、ガバナー補佐の皆様から担当されているクラブの現況報告や課題について報告され、また今後の地区の活動についての説明等がありました。でも最大のイベントは懇親会で、コロナ対策を取りながらも和気藹々とした懇親会が持てたことは、大変嬉しくつつい杯も空いてしまいました。

また、地区全体では会員数が伸びている話も明るい話題でした。各クラブの皆様がクラブ活動を楽しみ、そして仲間の輪を広げるということを実践して頂いていることに感謝しております。